

## 令和5年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

### 1 開催日時

令和5年12月13日（水） 午前10時～午前11時57分

### 2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員（11名）

林博文委員、小田島圭委員、堀合範子委員、中里美香委員、畠山孝子委員、高野橋加子委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、及川智子委員、佐藤可那実委員

#### (2) 事務局（9名）

市川生涯学習部長、鈴木花巻図書館長、高橋花巻図書館副館長、佐々木花巻図書館業務係長、小原大迫図書館長、辻村石鳥谷図書館長、大森石鳥谷図書館主査、菅東和図書館長、幅下新花巻図書館計画室主査

### 4 欠席者

1名

### 5 傍聴人

2名

### 6 議題等（議事録）

会議成立の報告（高橋花巻図書館副館長）

- ・委員11名出席。花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

## 1 開会（花巻図書館高橋副館長）

## 2 あいさつ（坂本会長）

皆様おはようございます。

私の周りでは、図書館どちらでもいいから早く作ってほしいという声がポツポツ出始めています。今日一番聞きたい内容かと思いますが、市川部長さんにご都合で早く帰らなければならなくなりましたので、協議の前にご説明をいただきたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

（市川生涯学習部長）

皆さんおはようございます。

後半のその他の部分で新花巻図書館の状況を少しご説明したいと思って参りましたが、早く戻らなければいけなくなってしまいましたので、先にご説明をさせていただきたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

資料は、新花巻図書館建設候補地比較調査の実施と書いてある資料1と、新花巻図書館の基本方針の資料2になります。この資料は11月24日に開催いたしました第13回新花巻図書館整備基本計画試案検討会議の資料と同じもので、今の状況と今後の進め方について記載してあります。

令和3年度において市民説明会や市民団体、市内に所在する高校等への説明をしたところではありますが、この市民説明会等では総合花巻病院跡地への建設を希望する意見と駅前のスポーツ用品店の場所が良いという意見と、両方の候補地に整備する場合の事業費などが示されないと比較できないというような意見も多くありまして、建設場所について集約はできなかったという状況であります。これにつきましてはホームページ等でも公開しているものでございます。

駅前のスポーツ用品店の場所はJR東日本の土地で、基本的にJR東日本は土地を売買しないという方針でしたが、花巻市が図書館用地として必要ということであれば、売買の協議に応じてもいいというような意向を示していただきました。

しかし、花巻市が候補地の絞り込み、つまりそこを図書館としたいという絞り込みができないうちには具体的な交渉はできないということでしたので、市民説明会を開催して、JR東日本に協議に応じていただきたいということをお話することでありましたが、先ほど申しましたとおり、建設場所の集約はできなかったため、そのことを改めてJR東日本にお話したうえで、それぞれの候補地の事業費などが示されな

いと比較できないというような意見もあるというようなこともお伝えして、花巻市としては2つの候補地の整備事業費を積算して、比較できるような資料を作って市民に対して説明しない限りどちらかへの意見集約は難しいと考えているということをお伝えしました。

そして、そのような調査をする前提としてJ R東日本に土地を譲渡していただける可能性とその場合の条件についてお示しいただけないかという願いをしてきたのが今年度でありました。

この資料1の下の方になりますが、J R東日本盛岡支社からは11月に条件が示されました。具体的な場所はこの図面上の赤い場所になります。スポーツ用品店がある場所と駐車場も含めて全ての土地を譲る可能性について示していただいております。面積が3,664平米、金額としては、市が以前に公表しておりました土地の評価額が約1億3千万円となっておりますが、それと同額程度と考えてもらっていいというようなことを言っていただきました。さらに、建物も含めて花巻市に譲渡するので、建物は市で撤去してほしいということ。また、少しわかりづらいですが、鉄道保守管理用通路切り替えというのは、この赤いところから線路に降りられるようにスロープがありまして、この土地を全部売ってしまいますとそのスロープがなくなるということなので、スロープを付け替えて道路から降りられるようにしてほしいという条件でありました。これには現段階で1千万円くらいの経費をJ R東日本の方で積算して出していただいたというものでございます。

次に2ページ目ですが、これまでご説明してきたとおり、市ではこの二つの候補地に図書館を整備する場合の建設費や駐車場などの関連施設の整備事業費、そして、さらに配置のイメージも含めて比較できる資料をしっかりとした専門の業者に委託して作成したいと考えておまして、旧総合花巻病院跡地とスポーツ用品店敷地、それぞれの資料を作ってもらうために、現在開催中の市議会12月定例会に比較調査のための業務委託費、約1千8百万円の予算の補正を提示したいと考えております。

具体的な調査項目といたしましては、建設するうえでどういう制限があるかなども含めた面積などの土地の現況調査や、これまで考えてきました基本計画の試案の中で示している部屋など内部の配置や機能など、駅前に作った場合はどうなのか、病院跡地の場合はどうなのかということも検討していただいて、ほかに駐車必要台数なども、これまでも我々が図書館でカウントしたりなどして積算をしておりますが、専門の業者にしっかりと調べていただいて、それぞれの土地にどのように配置すべきかとい

う案も考えてもらいます。そうした上で、必要台数に基づく駐車場の整備、駅前であれば今のところは立体が必要かなと考えておりますけども、その必要性や必要な場合は何階程度のもが必要なのかとか、そういうことも含めて事業費を出し、駅前に建てたらこのような感じ、病院跡地に建てたらどんな感じ、そして内部についても、それぞれの土地によって、レイアウトした場合にどういうイメージになるのかというのも少し作ってもらうというような調査事業をお願いして、その調査結果を市民に提示して、説明して場所を決めたいというふうに考えております。

これにつきましては、11月24日の基本計画試案検討会議でもご理解をいただいております。市議会12月定例会に提案をしたいと考えているところです。補正予算の承認をいただいた暁にはすぐ契約をして調査に入りたいと思っておりますが、なかなか本格的な調査でありまして、現段階では9ヶ月の期間が必要と言われております。調査終了後には市民に説明をして場所を決めるというような形になろうかなと思っておりますが、やはり現段階でどちらの案もいいというようなご意見がありますので、しっかり集約するためには、専門の業者に作ってもらった資料に基づいて、もう1回、市民に説明して意見を集約するべきであろうと思っております。その方法についてはご説明してきたところでありますので、市議会のご理解をいただいて進めたいというふうに考えております。

資料2につきましては、これまで図書館計画の試案について文章でいろいろ示して考えてきていたところでありますけども、3つの基本方針というのがありまして、その方針に基づいてできるだけ具体的なイメージを市民に示していった方がいいのかなということで作成した資料です。これも試案検討会議にお示ししたものです。

1枚目ですが、基本方針の1が「郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館」というものでありまして、宮沢賢治、高村光太郎、萬鉄五郎、新渡戸稲造や、「揆奮」という中学生のための花巻の先人を書いた本など、そういうものに触れられるようにしたいということでありまして、特に宮沢賢治に関しては、1ページ目の下ですが、宮沢賢治記念館とイーハトーブ館が花巻市にはあるわけですけども、イーハトーブ館では宮沢賢治に関する資料が2万点ございます。これは2万点ありますが館内での閲覧のみとなっておりますので、そういう状況をお示ししまして、あと新しい図書館ではどうするのかということですが、購入可能な資料は可能な限り収集、保存、提供をしたいというものでありますし、ただこの論文とかですね、古い資料など購入できないようなものはイーハトーブ館と連携して、複製を置く、あ

るいはデジタルで見られるようにするということを検討したいというものですし、新しい図書館の館内には宮沢賢治のコーナーを設置して、関係資料を集約したいと考えているというところでもあります。先人に関わる資料を所有している図書館の例として、次のページで事例を少し紹介しています。

先人あるいは歴史なども紹介している図書館、中には土器などを図書館の場で展示している図書館もございます。宮沢賢治に関しては、宮沢賢治のコーナーを設置するなどの特色のある企画展示などもやっていきたいなというような例です。

5 ページは、例として今の花巻市博物館ですが、先人顕彰のコーナーでありまして、このようにパネルなどで紹介しながら図書も置くとかですね、ある程度先人を紹介するコーナーも必要ではないかというふうに考えているところでもあります。

次の7、8 ページです。これは基本方針の2「すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館」であります。これは子供から高齢者、障害者など全ての市民が使いやすいものということでありまして、まずは幼児、児童ですが、このとおりにつくりたいというわけではなくイメージです。先進の図書館の写真を許可をいただいて載せたものですが、畳があって靴を脱いで本を読めるような部屋とかですね、親子で読めるような遊び場的なスペースを持っているような図書館もあるという例です。

9、10 ページに行きますが、学生に限りませんが、グループで学習できるようなスペースを持っているところ、あるいは1人でゆっくり本を読めるようなスペースの例でありますし、下はトイレとか授乳室とか子供のためのスペースなども検討していきたいという例であります。

次の11、12 ページです。ユニバーサルデザインという、子供から高齢者までサイン表示などもわかりやすいものにしていきたいとか、書架の配置も車椅子などでも動きやすいように広くしたり、高さもできるだけ高くない低いものとか、そういうようなものを考えたいと思っておりますし、スヌーズレンという感覚にいい刺激を与えながらリラックスしてもらおうというような、そういうコーナーもできないとか、そういうところも検討しているというところでもあります。

多様な利用目的ということですが、今の図書館はいろいろな形態がありまして、結構音楽を流しているような図書館が普通になってきておりますが、逆に静寂読書室という全く音が鳴らないような防音の部屋などを持っている図書館もあります。静かに読みたいという方の部屋などの例もありますし、CDとかDVDを見るために1人でリラックスして見られるようなコーナーなどもあります。

基本方針の3つ目「暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館」というものであります。レファレンスコーナーといった相談や検索ができるコーナーを独自に持っている、複数持っているような図書館もありますし、ビジネスに関する支援相談などをやっている図書館もあります。

最後のページですが、利便性の向上というところでは予約図書コーナーという、予約した図書を自動で自分1人で借りられるようなシステムがある図書館があります。また当然ですが、W i - F i とか机にはひとつずつライトやコンセントがあるのが普通になっていますよというような例であります。そしてさらには、図書館の中から情報を発信しているような図書館があります。都城図書館では、ブックマシーンというもので自分で本を作って図書館に置くというようなことができるそうです。これは都城の資料が少なすぎるので自分たちで作るにはどうしたらいいだろうということから始まったらしいです。この都城の下ですが、これまでのワークショップやカフェなどの意見もありましたが、カフェの中で地域の商品を販売しているという、そういうようなこともやっています。こういう事例なども含めて、新しい図書館で可能なものは取り組んでいきたいなということで検討しているというところでございます。

以上で説明を終わります。ありがとうございます。

(坂本会長)

現状について丁寧にご説明いただきました。ありがとうございます。

(市川生涯学習部長)

このようにまだ時間がかかるということで申し訳ないのですが、市議会12月定例会で予算の承認をいただければ、しっかりとした業者にきちんと調査していただいて、その上でまた比較できる資料を皆さんで見てくださいというものなので、いいものを作るためにもう少しお時間をいただいて、また皆さんのご意見をいただきたいと思いますので、申し訳ありませんがどうぞよろしく願いいたします。

(坂本会長)

ありがとうございます。産みの苦しみの時間ということで、ちょっと待たなければならぬということのようです。

それでは続けさせていただきます。

### 3 議題

#### (1) 令和5年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和5年度花巻市立図書館の事業実施状況について、花巻図書館から順番に各館が説明（資料1）。

花巻：佐々木業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：辻村館長、東和：菅館長

(質疑)

(○中里委員)

質問です。花巻図書館の4ページの下のところの学校連携事業で中学校との連携で図書展示とありますが、これは図書館の中での展示でしょうか。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

こちらはそれぞれの学校での学校図書館の中での展示となります。学校でこういうテーマで展示をしたいという相談がありまして、それに対してこちらで図書を選書して届けておりました。

(○中里委員)

わかりました。あともう一つ質問というか教えていただきたいんですけども。どの図書館さんもいろいろ何か興味を引くようなギャラリー展だったり、工作だったりと企画されているんですけども、この参加者数だけだとちょっとわかりづらいので、それを開催してみても何か具体的な振り返りとかがあれば、教えていただくと様子がわかっていいです。例えばその関連の本の貸し出しが増えたとか、すごい反響がありましたとか、もしあればお願いします。

(○坂本会長)

それでは事務局お願いいたします。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

すみません。現状は来館者数のみですので、これからそのご意見を取り入れてやっていけたらいいと思います。

(○坂本会長)

ギャラリー展に関してはギャラリーをお貸しするというので、その運営に関しては図書館は関わっていないんですよ。

(○小原大迫図書館長)

大迫はですね、全部図書館側から声をかけて講師さんに来てもらう形で開催しております。人気があって新聞に載ったりすると、お客さんが多く来館されます。図書の利用とまではちょっといかないかもしれませんが、来館者数は多くなります。

(○辻村石鳥谷図書館長)

石鳥谷の場合は市民の方からの申し込みによりまして、展示していただいております。題目とかそういうのはこちらで作りますが、展示自体はギャラリー展を開催したい市民の方が行っております。

(○坂本会長)

開催案内もサークルから来ることがありますよね。東和さんは。

(○菅東和図書館長)

東和のギャラリー展示についても市民の皆さんからの申し込み、市民というか団体サークルからですね。毎年開催している方も結構いらっしゃいますので、事前にこの期間展示させてくださいということで調整して、あとは展示はその持ってきた方々にやっていただいているという状況になっております。

(○坂本会長)

花巻はギャラリーがないですね。寂しいです。新しくできるまで待ちましょう。

(○中里委員)

こういうことやりましたっていうだけではなく、参加者数に加えて、そのときの利用者さんの反応もちょっと見て伝えていただけるとわかりやすいのでお願いします。

(○坂本会長)

他にご意見ご質問ありませんでしょうか。はい、堀合委員さん。

(○堀合委員)

学校連携事業でとてもいいなと思って今見ておりました。小中学生は花巻図書館について言えばあの遠いところにありますので、子供たちが自分で足を運ぶというのは難しい面もあると思いますが、学校に図書館の本を貸し出すというとてもいいと思いますが、これは学校からの申し出があって行っていることですね。

(○鈴木花巻図書館長)



学校の方から、こういう本を貸してほしいというご相談をいただいて、こちらで用意してお貸ししております。

(○堀合委員)

いい企画ですけれども、中学校に関して言えば北中さんと花中さんだけということで、学校からの申し出がなければこの企画はゼロになるのかと思うと大変もったいないと思いますので、例えば今年度、北中さんがこういうふうな展示したとか、そういう例を他の小中学校に何かの形で伝えて、たくさんの学校がこういうことをやってもらえればいいのかと思っております。

少し関連しますが、施設見学対応というところもありまして、いくつかの学校が来ておりますが、これも先ほど申した理由でやはり子供たちが1人で来るには親が一緒に付いてこないと思えないと思うんですけれども、親御さんが忙しい子供であっても、学級あるいは学年でそういう見学ということになりますと、私たちの町にはこういう図書館があったんだということを小さいうちから知らせる意味でも大変いいと思いますので、やはりこの施設見学、先ほどの学校連携事業と含めて、学校へのPRをこれからもなさって、こういうところが増えてくれればいいなと思っております。

(○坂本会長)

校長先生方お二方見えてますけれども、これに関して何かお話ありますか。

(○林委員)

2年生ぐらいの学年が図書館に来るとするのは非常に貴重な体験だなと、自分も引率経験があるので、市内全体に広がっていくよう、校長会等でも声かけたりして広めたいなと思いました。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

学校へのPRについてのお話ですけれども、図書館では学校文庫と言いまして、定期的に学校に本を届けるということを行っております。年に1度、市内全部の学校に希望をとりまして、学校文庫を希望しますかとか、図書館に希望することはありますかとか、ご意見をくださいというアンケートをとっているのですが、今年度からそのアンケートを取る際に、図書館では学校文庫をやっています、展示の相談も受けますというPRのチラシを入れてお配りしました。ただ、今年度から始めたことですので、他にもお話できる機会があれば、図書館ではこういうことをやっているということ伝えていければと思います。

(○坂本会長)

それに付け加えて、どこの学校でこういうことをしましたっていう例などがあるとわかりやすいかなと。こういうふうにはできるんだって思うかのなと思うので、そういうことも書き加えていただければすごくありがたいのかなと思います。

(○及川委員)

花巻図書館さんの企画図書展のところにある、8月の貸出ゼロの本、これ前回ちょっと話が盛り上がった企画だと思うんですけども、ちょうど夏休みの時期で、来館者数多いようなんですけれども、貸し出しゼロは減ったのでしょうか。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

すみません数字としてはちょっと持ち合わせてないところです。通常はテーマに沿ったものを並べるんですけど、今回はちゃんとあらすじとかそういうものをつけまして、手に取ってもらえるように工夫しました。ちょっと確認する時間いただければと思います。

(○及川委員)

あともう一つ、石鳥谷町図書館さんの企画図書展の4月の推し活ってありますが、これはどのような展示だったのかなというのがちょっと気になります。

(○辻村石鳥谷図書館長)

うちわを作ったものを展示したりとか本を並べたりしました。

(○佐藤三委員)

私からよろしいですか。推しってアイドルを推すとかのことで、そういうことを若い司書さんが企画して、うちわっていうのはその応援するアイドルとかのもので、それに関連したその推し活をテーマにしたヤングアダルトの本とか、そういうものを展示したっていう若者向けの企画です。

(○坂本会長)

ネーミングがすごくユニークで楽しいですね。皆さん考えてくださっていることが伝わってきます。ありがとうございます。

それでは議題の1番は終了して、その他に移りたいと思います。

事務局どうぞ。

## (2) その他

### (○高橋花巻図書館副館長)

近年、冬休み期間中に実施しております来館者アンケートについてです。

例年、アンケートの集計結果とアンケートに記載のあった質問や要望に対する対応事項等を、次回、第3回の協議会で皆さんにお示ししておりました。今回は今年実施するアンケートはこういう内容ですということを事前にご覧いただくためにお配りいたしました。

内容としては例年とほぼ同じですが、前回の協議会でもご意見をいただきました読書おもいで帳の関係ですね。様々なところで大人の利用についてのご要望がありますので、子供だけではなくて全年齢に配布できるように準備を進めておまして、それに合わせて、8番の質問事項をちょっと変えています。前回までは、読書おもいで帳を使いたいと思いますかとだけ質問しておりましたが、今回は対象外の大人の方も交付対象となった場合には使いたいと思いますか、と直したものです。これによって全年齢層の要望的なものがつかめるかと考えて変更したところでございます。

次に10番目の質問ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として実施いたしました、貸出冊数と貸出期間の拡大を現在も継続しておりますが、これを今後どうしていくかを考えるために追加したものです。自由記載の形で意見を集めたいというふうに思っておりました。

最終ページには、その他いろんな要望を挙げてください、新図書館の整備について自由にお聞かせくださいとしておまして、あとは例年どおりの内容となっております。この質問項目で、冬休み期間中にアンケートを実施いたしまして、それを集計、分析して第3回の図書館協議会に報告するという流れで考えております。

もし、アンケートについてご意見があれば、修正できる場所はしたいと思いますので、今でも構いませんし、後日でもいいですのでお早めにいただければ対応させていただきますと思います。

### (○堀合委員)

アンケートに関連して、来館者の総数は入り口のゲートで把握できますが、10代、20代の青少年がどれだけこの図書館を利用しているかということ把握する方法は何もないですか。あくまで、アンケートに答えた人のみでしか、年齢層の把握は出来ないですか。

(○鈴木花巻図書館長)

おっしゃるとおりです。

(○堀合委員)

それから、資料の1、2にちょっと関わるんですけども、年間に廃棄する冊数は、例えば花巻図書館でどれくらいでしょうか。年によっても違うと思うので、昨年度とかでよろしいです。

(○鈴木花巻図書館長)

確認するお時間をいただいてよろしいでしょうか。

今、新しい図書館に向けて花巻図書館からどれだけ蔵書を持っていくかということを図書館計画室と協議をして考えながら除籍を進めております。新しい図書館の蔵書数の検討前は、あまり除籍は積極的に行いませんでしたが、現在は新しい図書館の開館にあたってどれくらい新しい本を購入するのかという数字を検討しておりますので、それを踏まえたうえで除籍を進めております。税金で買った本ですから簡単に捨てることは出来ないということもあると思いますが、あまり積極的に除籍をしてこなかったことによって、今花巻図書館は本が大変多くなってしまっているという現状ですので、今は除籍を一生懸命やっているところです。ですので、直近の除籍冊数は、例年コンスタントに除籍している数字ではないということだけ先にお話させていただきます。

(○坂本会長)

本を入れられる場所は図書館だからといって無限にあるわけじゃないですし、除籍は難しいですね。

(○中里委員)

私、図書ボランティアやっているので、学校の図書室に行きますが、除籍する基準というか、何年に発行されたとか、本貸し出し回数が何回とか、どういう基準で除籍をしているのでしょうか。

(○鈴木花巻図書館長)

花巻市立図書館には、除籍基準があるのですが、あまりそれを活かせてないというのが現状でして、その年の状況によって除籍をしてきているという状況が今までずっと

と続いてきています。今後は、基準に従って進めていかなくてはならないと思いますし、その除籍基準をきちんと見直していくことも必要と考えています。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

除籍の数ですけれども、令和4年度が約5,000冊除籍しております。また、今年度は現時点で8,000冊ほど除籍しております。

(○堀合委員)

ありがとうございます。この資料の数字、おかげで納得できました。令和4年度の花巻図書館の受入冊数は7,238冊ですが、その前のページにある所蔵数を見ますと、令和3年から4年にかけて所蔵数が2,600冊しか増えていないのでこの差は何なんだろうなってちょっと思ったところでした。ということは除籍が多いのかなというところで、質問したところでした。と申しますのは、花巻図書館は書庫1階も満杯状態で横積みにはせざるを得ないような状態ですので、そのまま年間7,000冊とか8,000冊増えていったら、一体、本はどこに置くのかと、次の書架はどうするのかという心配があるわけです。

新しい図書館は今建設場所でいろいろ議論がありまして、図書館建設はこの場所であるところには至っていないので、ざっと見ても6、7年は少なくともこの状態で、この図書館でいることになると思います。毎年7,000冊も増えたならばどうなるのかということをおもったわけです。花巻図書館の書架を見ますと、かなり本がいっぱい入っていて、1冊取ろうかなと思って手をかけると4、5冊出てくるような状態です。こういう本もあるよということをおも、来館者に見せるためにできるだけ多く目に触れるようにするという反面、この多い本をどうやって見せるようにしていくかと、狭い図書館でご苦労なさっていると思います。例えば、この書庫がいっぱいになったときに、次に書庫をどうするかということをおも話し合われたりすることはあるのでしょうか。

(○鈴木花巻図書館長)

この書庫がいっぱいになったときにどうするかという具体的な話は今のところないです。私も来てからいろいろと考えているところですが、図書館というのは、そのサイズに合った本を所蔵するというのが本来の姿だと思います。ただ、図書館の蔵書の規模がその自治体に合わなくなってくれば、または建物が老朽化してくれば、大きな図書館に建て替えるとか、市民が増えれば大きな図書館が必要になるとか分館が必要に

なるとか、そういったことになってくるのかと思います。今、堀合委員がおっしゃられたとおり、新図書館が6年後か7年後となると、今の図書館の蔵書はどうなってしまふのかと私も同じように心配になりますが、入ってくる本の数と除籍をする本の数を見れば、おっしゃられるとおりわかる話であって、入ってくる本の方が多ければ、確実に増えていくわけです。本来図書館は、例えば40%とか50%くらいからスタートして、100%にならないように蔵書管理をしていくのだと思いますが、数字として把握はしていませんが、花巻図書館は既にキャパシティに対して100%を超えていると思います。

除籍の話在先ほどさせていただきましたが、やはり更新しなくてはいけない本、更新していくべき本というのは、利用されていないという理由もあるかもしれませんが、郷土資料とかは別にして、時代とともに内容が新しくなるのであれば、どんどん捨てて更新していかなくてはいけないと思いますし、ある程度利用されて古くなって、それでも必要な本なら買いなおすことということもあるかもしれませんが、そういう入れ替えをしていくっていうことを、先ほども言いましたけども、あまりしていなかったのかなと感じています。それはその本を大事にするという理由もあったのかもしれませんが、基本的には除籍すべきものは除籍して所蔵の管理をしていかなくてはいけないと考えております。

(○佐藤三委員)

除籍ありきの今お話をなさっていると思うんですけども、私は図書ボランティアをしていて思うことですが、新しい児童書っていうのは、かなりの割合で花巻図書館に入るわけです。石鳥谷とか大迫とか東和とかは、その人口に合わせた予算ということらしく、新しい本を小さい東和とか大迫とか石鳥谷っていうのはさほど買えないんですよ。花巻がいっぱい買う、私はボランティアで読み聞かせするときに、予約して花巻から取り寄せる。ほとんどモエとかに載っている新しい絵本とかは8割がた花巻に入るんです。それで私たち石鳥谷の人たちは古い本を大事に使っていて、花巻の図書館は早めに書庫に入ってしまう。私はそういう印象を持っています。それで人目に触れない。石鳥谷の人にとっては新しい本も書庫に入ってる。書庫に入れてしまうんだったら、石鳥谷町とか大迫とか東和に貸してよって、予算上花巻のものかもしれないけど、他の小さい図書館に一定期間貸し出すとかね、そういう利用の仕方でも回していくっていうことも考えた方がいいと思うんですよ。それを私はここで何度かね発言してるけど絶対そうならない。何でだっていうふうにも思っていて、「子どもに

物語の読み聞かせを」っていう本を私が2冊買って、花巻と石鳥谷に寄贈して、学校図書館支援員の小山田先生がお辞めになるときに花巻に持っていったと。そうしたら花巻ではそれを花巻BMと書庫に入れたと。私の考えだったら大迫と東和、持っていない図書館に回したらいいんじゃないかって思う。中央図書館というのはそういう判断をするところだと思うけど、そうならなくて、そしたら前回の会議で花巻の館長さんが私にその本は今の現時点ではそういう状態になってるけれども、大迫と東和に新しく購入する方向で考えていますっておっしゃってくださって、そうなんだなと思っていたけれども、10月になってもならないので、私は松井さんに電話してこの状況をお話して、松井さんが大迫と東和に行くようにして、今各館一冊の状態になってますけれども、そういう意味で、各図書館が持っていない本を花巻図書館は書庫に複数持っているという割合があるんですよ。それを解消してからの除籍だっというふうに私は思う。

(○鈴木花巻図書館長)

ありがとうございます。前からご意見をいただいているんだと思いますが、もう一度確認をして、これからご意見を活かしていきたいと思います。

(○堀合委員)

すいません。閲覧室に入らない本は、書庫にしまう、ということではないですよ。あそこの書庫はどなたでもどうぞご利用くださいということで、見えないなと思ってネット検索するとある。そうすると司書の方に聞くと、こちらですからどうぞお入りくださいというふうに、皆さんは開架だけが全てとは思ってない。ですよ。石鳥谷図書館さんもそれは同じですね。郷土の本とかそういったようなのはどうぞ見てくださいみたいな感じで、禁帯出以外はお貸ししますみたいな感じで、今どこの図書館さんも従来使っていた閲覧室は手狭なので、そういうふうな第2閲覧室のような感じで書庫を置いているというふうな解釈でよろしいですもんね。

(○鈴木花巻図書館長)

そうです。ただ、花巻の書庫は1階と2階がありまして、1階は皆さんに入っただけですが、2階への立ち入りは図書館員だけということになってまして、一般の方はご案内してないので、要望があれば職員が行って持ってきて貸し出しをするという形になっています。

(○堀合委員)

受付の方がいるカウンターの裏ですよ。

私、調べてもありませんって言ったら、こちらですどうぞって言われて、他にも入っている方がいたので、こういう使い方は大変いいなと思って利用させていただきました。

(○坂本会長)

他にはございませんでしょうか。

それでは事務局ご用意があると伺いました。お願いいたします。

#### 4 その他

(○高橋花巻図書館副館長)

秋の初め頃に佐藤委員さんから、学校図書室に関する質問をいただきました。

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布、施行されました。翌14年に国は「子どもの読書活動に関する基本的な計画」を策定し、それに基づきまして、平成16年には岩手県においても「読書活動推進計画」、花巻市においても平成19年に「第1次花巻市子ども読書活動推進計画」を策定し、現在は第4次ということで、委員の皆様にも内容を確認いただいて作成いたしました。

こういった子供の読書活動の推進に関する法律がありますが、いただいたシンポジウム記録の資料によると、その財源としては交付税措置によって充実を図るということで取り組みを進めてきたようですが、平成14年から15年の時点では、交付税措置はされていても3分の2の自治体では交付税を読書活動推進の財源に振り分けてはいなかったようで、今の状況はわかりませんが、交付税措置されてもそれが読書活動や施設、環境整備に振り分けられるかということ、それは各自治体の予算の使い方次第ということになっているようです。そういった中で前任の小山田先生が学校図書館支援員として赴任され、そういった施設環境整備等々にご尽力いただいたわけですが、それでも予算を取ることがなかなかできなかったわけで、それならどうすれば予算化できるのか、またその要望ができるのかということや、そもそも学校図書館支援員はどのような支援をするために配置されているものか、というご質問でした。

私のほうで教育委員会に聞き取りをして、今の状況ということで調べてみました。要望の仕方がルール化されているケースとして土木施設要望などがありまして、地域の土木施設要望を区長さんや地域コミュニティが吸い上げて、そこで優先順位をつけ



て実施していくというようなやり方があります。しかし、教育施設に係る予算に関しての要望の仕方というのは、ルールづけが無いようです。学校図書館支援員の位置づけとしては、学校図書館に入っていった環境整備や施設運営の仕方などを助言していくわけですが、予算に関連するといえますか、結びつくような役割を想定して配置しているということではないということでした。それではどうやって施設環境整備の要望をしていくかということですが、今こちらに校長先生がいらっしゃいますが、各学校の窓口は校長先生になるということでした。

(○佐藤三委員)

地方交付税で学校図書館整備費に使ってくださっているというふうになっていると。けれども、その予算が学校図書館整備費に使われず、地方によっては橋になったり、建物になったりしているんだってということで、花巻はどうなんだという疑問があるわけです。小学校2年生の教科書に、君は図書館探偵団だっているところがあって、小学校2年生の子供たちが自分たちの学校の図書室を探偵するっていう内容なんです。

石鳥谷小学校では、今20歳のうちの娘が小学生だったとき、分類の表記0からね9まであるけど、その下に該当する本が全然なくて、意味ないじゃないかっていう意見が保護者から出て、それを図書担当の先生に言ったら、あつてないんです、って言って、それが当たり前のような感じで。もちろん校長先生はいらっしゃるけど、3年とかの単位でどんどん変わっていかれて、その話ができるようになるまで時間がかかってしまうわけですよ。それで図書ボランティアの方から、学校図書室、これじゃ駄目なんじゃないってことになって、当時は教振のほうからお金を出してもらって、図書室を整備したんだけど、今日なんか私の調べたところでは、教育振興費ってのは何か岩手県だけのことなんですか。地方交付税でね。それすごく気になっていて、石鳥谷小学校は図書室と会議室が一緒なんです。それで大きいテーブルがあつて、書架がすごく足りないわけです。それでカーテンもなくて、いつも陽に当たっていて、赤い背表紙の本は全部のっぺらぼうになるんです。それで当時のボランティアさんで全部貼り直して、ちょっと立派な本みたいに見えるようにしたら、そののっぺらぼうの本が貸し出されるようになったんです。だからこれを変えたくないなって言って、カーテン買ってほしい。あるいはUVカットのガラスに変えてほしい。あるいは書架が足りないから可動式の動かせるような本棚を買ってほしいという要望が出たんですよ。そういう要望を学校図書館支援員さんに伝えたけれども、全然かなわなかった。私はもう去ってしまったので、今石鳥谷小学校の図書室がどうなってるかはわ

からないけれども、今申し上げたように一番子供のそばで活動しているボランティアの皆さんが学校図書室に対していろんな疑問を感じている、その要望とかを吸い上げるところはどこなのかっていうことを、今、副館長さんの話でも曖昧に終わってしまったけれど、どこなのかっていうのをやっぱりはっきりしましょうよっていう話です。よろしくをお願いします。

(○坂本会長)

せっかく校長先生おいでになっているので、学校の立場っていうか、校長先生のお考えもお聞きしたいと思いますが、よろしいですか。

(○林委員)

湯口小学校の場合だと、高野橋加子委員さんがお見えになってはいますが、かなりの頻度で学校にお入りいただいて、図書環境整備を盛んにやっていただいて感謝している。担当教諭は3人もつけています。学級担任等やっているの、なかなか目が行き届かない面もあったり、いろいろ本校の場合だと、読書おもいで帳の機械も導入し、12月末から冬休みにちょうど入るわけなので、通帳も渡すというような流れで今一気に加速的にやっているんですが、いろいろな応援とかは図書ボランティアの方などからたくさん頂戴する場面があってありがたいなと思っていますし、いろんな意見を大事にしながら私は進めており、図書ボランティアさんの声は大事な声として進めてきて、ようやく今があるなと思っています。

いろんな声が届いて湯口の場合は、小中連携で中学校さんにも機械の方を協賛金でお渡しして、小中で一気に読書の熱も上がっていくんじゃないかなとも思っていますし、いい意味でうまく活用されているのかなと思います。図書のところは、ボランティアの方々からの声は担当教諭、校長までもノートは届きますし、もっといろんな声が本当はあるのかもしれませんが、子供たちは本も大好きですし、今日のようないろんなたくさんの方の大事なところを学校図書室は背負っているんだなと思って、私は持ち帰りたいと思います。ちょっと答えにならずにすいません。

(○小田島委員)

大迫中学校の小田島です。大迫中学校に限らず私が感じていることをお話しさせていただきます。今出ましたこの話題については、ここでは結論付けることができないと思いますし、解決することもできないと思います。各学校で図書室の経営の仕方が同じように見えても違う部分もありますから、何とも言えませんが、やっぱり学

校のそういう要望が委員会の方に上がっていく、あとは委員会の中での担当の方が委員会内であったり関連するところとやり取りをしながら進めていくっていうことになるので、やっぱり今日言ったから翌月には解決するとか、そういうふうにパパッとはいかないと思います。いろんな部署で本当にマンパワーが不足しています。そういう中で地道に細々と、しかも何とかしてそこを繋げたいのだからっていうことでやっていくしかないんだらうなって感じていましたので、ただやっぱりそういう教育っていろんなところでもそういう地道な努力の上に成り立っているよなっていうふうに思いますので、そういったところでちょっとずつ頑張っていくしかないんだなって思っています。

(○坂本会長)

はい、ありがとうございます。今のこの発言は、ぜひとも市川部長さんにお聞きいただきたかったことなので、このことはちゃんとお伝えいただきたいと思います。

(○鈴木花巻図書館長)

副館長の方から申し上げた回答について同じ話になりますけども、学校教育課の方に副館長の方でも確認をして、学校教育課からの回答が各学校で相談してほしいという回答があったと、簡単に言うとそういう内容です。ただ、各学校でといっても、やはり今おっしゃられたように各学校の事情は違いますから、対応はそれぞれだと思います。そしてボランティアの皆さんの活動の中で、子供たちの図書館なのにどうしてももっと良くならないのがという話も全くその通りだと思いますし、私もここに来て、子ども読書活動推進運動って何だろうっていうことをいろいろ勉強していく中で、子どもの読書を進めるために簡単なのは、学校の図書館を楽しくすることで、そこが楽しかったら子供たちは本を読むようになるだろうって、個人的には思っています。公立の図書館として学校図書館との連携っていう言葉が業務の中に当然ございますので、さっき言ったような学校図書館での企画展に資料を提供するっていうところももちろんですが、さらに一歩進んで連携していくにはどうしたらいいのかということも考えています。もちろん一方的にできることではないので、学校さんの事情も把握しながら考えていきたいと思っていることです。

(○坂本会長)

すぐにはなかなかできないけれども、こういう状況にあるんだっていうことを、皆さん共通理解なさったと思うので、何かのところでは声を上げていただければ、それが少しずつ大きな力になるかなと思います。

(○佐藤三委員)

私は学校図書ボランティアを去りましたが、今一生懸命やっている中里美香さんとか、そういう人のためになりたいわけです。自分の経験を活かしてね。一緒に活動したお母さんたちと、あのとき楽しかったよねだけの思い出じゃなくて、やっぱりこれだけね、子供と本を繋げたよねっていうような、やっぱりそういうのを目指しているから、石鳥谷小学校は図書館は学区外だし、お母さんやお父さんが車で連れて行かないと図書館を利用できない子供たちも多い学区なんです。なので、学校の図書館を充実するためにはどうしたらいいかっていうのは、大人の私達が知恵を絞ってやっていかなきゃいけない。もう自分の子供は小学生じゃないから関係ないではないんだっていうことをね、なんかみんなで共通認識したいなと思います。

(○坂本会長)

貴重なご提言でした。ありがとうございます。その他にございませんでしょうか？  
はい、堀合委員さん、

(○堀合委員)

佐藤委員さんのお話聞いておまして、本当に学校図書館のことを考えてるんだなということがわかりました。そう申しますのはね、先ほど佐藤委員さんが校長先生が2、3年変わってしまうのでとおっしゃいましたが、ぜひ新しい校長先生が来たときにですね、現状が変わっていなければ、ちょっと新しい校長先生にお話なされば、例えば今日の話が部長を通じて委員会に行くと、そういった場合に校長先生に聞いたら、いや、何もボランティアさんからそういう話は出ておりませんよとなれば、ちょっとやはり今後の図書館ボランティアさんと学校との連携というところでも、やはり深めていく必要があると思います。校長先生が変わる都度こういう課題があるんですけども、ぜひあの話を上にもっていただけてませんかみたいところは続けた方がよろしいんじゃないかなと思います。

(○坂本会長)

林先生のところに湯口小みたいに、ボランティアさんのノートが校長先生のところにまで届くというのも、いい試みだなと思いました。

(○高野橋委員)

私、小学校で20年くらい、中学校はもうちょっと少ないですけど、図書ボランティアをずっとやっておりますが、根本的な問題として学校は教育委員会で図書館は生涯学習課で教育委員会の管轄の中に入っているその図書館っていう、すごい特殊な場所であると。ここは公共図書館に関して話す場ではあるんですが、学校の図書館っていうのは、一番子供たちにとって行きたい場所で、そこで図書館の使い方を学んで、それがそのまま将来の図書館の利用者になる。ていうことなので、やっぱりこれはちょっと外せない問題だなっていうのはいつも思っておりましたが、根本的に管轄が違うというところで、どこまでいっても平行線なんです。一番は、トップダウンが一番早いので市長に言った方がいいかなと思いますよ。あの行政機関の問題になってくるので、というのは、今年度学校図書館司書が2名入りました。北中と若葉小と、でもその管轄は教育委員会でやっています。ただ、南相馬とか一関もそうなんですけど、管轄は生涯学習課というか図書館の方から学校司書が行ってるんですよ。うまくいってるところはそういう体制をとっているそうなんです。教育委員会の主導でやるところってのはやっぱり結局どっちにも責任がないっていうような、ボランティア関係の皆さんはそこでものすごく悶々としてやられてると思うんですけど、そういうことがあります。校長が変わればまた次の校長にっていうふうなことを今おっしゃられましたけど、それがなかなかいかないですよ、実際問題として。これはここだけじゃなくて、私もいろいろな研修会とか出ているときで、それこそあの有名な陸前高田とか、あっちの方でNPO法人でやってらっしゃる方とか、いろんな発表される方からも同じこと聞きますが、やっぱりトップ変わると、体制はまたゼロに戻ると。結局その繰り返しが3年周期でやってくるような感じなので、ボランティアが疲弊して離れていくっていうのも現実なんです。実際問題、林先生がいらっしゃる前です。林先生ではないですけども、私もう今、小学校と中学校から指示があるまでは来るなと言われてるので行けてない状況なんです。今は読み聞かせでは行っていますが、図書整備ではあまりタッチしてません。こないだ式典に間に合わせるために1人でやってらっしゃるボランティアがいたので見かねていきましたけれども、実際問題あの図書室は今10%ぐらいしか機能できないと思います。これはあくまでボランティアさんと、一応ちょっとポンコツですけど私司書資格持ってますので、配架の仕方とかそういうのをちゃんとしないとやっぱり子供らにうまく本届けられないし、実際にその作業やってるときやっぱり来るんですよ子供らが。面白い本ありますかって。それを

1冊ずつ届けるっていうのがまた楽しみで、ずっと20年続けてきたっていうのあるんですが、この会議じゃなくて別の会議で、それこそ図書館支援員の方の発言だったと思います。全校配置、学校司書の全校配置を目指していきたいっていうのを、正式な会議で言われたそうなので、ちゃんと学校司書さんが入れば、これも少しは解消になるかなと思います。

(○坂本会長)

ありがとうございます。実践をして本当に実体験のところから出た貴重なお話ありがとうございます。少しずつですがでも改善されてるようには思うんです。前は図書館の支援の小山田先生のような立場の方もいらっしやらなかったのが、ここでそういう先生必要だよっていうことを言ってそれで実現した。そして実際に学校図書館司書が配置された。そういうことも少しずつだけれども前には進んでると思うんです。声を上げていくことが大事かなと思います。花巻市の場合は、図書館が関係しているとなると、教育委員会の会議にも生涯学習課の人たちが参加してくれております。ですからやっぱり全く別々のところを歩いているわけではないんだっていうことはご認識いただきたいと思います。今日のこの貴重なお話は、ぜひとも館長さん、直接市長さんでもいいですし、部長さんでもいいですし、何かの機会があったらぜひお話いただきたいと思います。お願いいたします。

(○小田島委員)

すいません、補足なんですけれども、校長が2年、3年で変わったりするとゼロに戻る云々っていうお話がありました。負の連鎖が続いていたり、負の財産が蓄積しているのはその通りですけれども、そうならないようにしようということで立ち上がったのが学校運営協議会です。コミュニティスクールです。ですので、やっぱりそこをそれぞれの学校運営協議会をしっかりと機能させて、校長が変わっても、今やっているこのことが次のときにきちっと引き継がれて、それがなくなるとかやらない理由にならないようにしっかりやっていきましょうっていうのは大迫の学校協議会では言ってますし、各地域のコミュニティ会長さんにもお願いしているところです。そういうシステムがありますので、ぜひそこを活用していただいて、校長が変わったからやなくなったとか、変わったら今度は理解のある方でうまくいったとか、また変わったら駄目だったとか、そうはならないようにしていきたいという学校運営協議会です。ぜひご活用ください。

(○坂本会長)

いろんなところの組織を使いながら前進していくようにしていきたいと思い、思います。このことに関してのご意見はよろしいですか閉じて、はい。

それでは4番のその他まで終わりましたので、事務局の方にお返しいたします。

(○高橋花巻図書館副館長)

ありがとうございました。様々ご意見をいただきました。それでは、他に何か委員の皆さんから質問とかご意見とかございますでしょうか。

(○鈴木花巻図書館長)

学校図書館司書に関して、先日の市議会でも質問がありまして、まだ来年度予算は決まっておりませんので、あくまでそういう方向で検討しているということだと思いますが、今後は11中学校区に配置するという方向で、教育委員会の方では進めたいということで、徐々に増やして行く方向で考えたいという答弁がございましたので補足させていただきます。

(○坂本会長)

ちょっと嬉しいニュースです。ありがとうございます。

(○佐々木花巻図書館業務係長)

花巻図書館に質問のありました貸し出しゼロの本について、ここで回答してもよろしいでしょうか。今回展示したものだんですけども、最近2、3年の間に出版された本について貸し出しゼロの本を抽出しましたところ、100冊程度ありまして、その中から展示したところですけども、面だししてちゃんと説明を付けたものが20冊ほどあったんですが、ほとんど借りられたということです。

(○高橋花巻図書館副館長)

今日も大変有益なご意見をいただいたと思っております。活かせるものは活かして花巻市立図書館をより良い方向へ変えていきたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

##### 5 閉会（高橋花巻図書館副館長）

それでは以上をもちまして、第2回花巻市立図書館協議会の方を終了させていただきます。ありがとうございました。